

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第50号（令和6年2月8日）

キラキラとした学校…委員会の取組

言葉（ことば）

以前の学校だより（第48号）で私は「委員会活動などの自治活動が活発な学校はみんながすこしやすく、キラキラしている良い学校だと思います。それは【学校を良くしよう】という思いで、先生たちにあれこれ言われるのではなく自分から活動するものだからです。」と言いました。今年度のそれぞれの委員会が【玉小をもっとよくしよう】といろいろな活動をしてくれたことがとてもうれしいです。今回も新たな取組をしてくれたので紹介します。

〇言葉づかい…保健・環境委員会の取組

「玉小をより良くするために、言葉づかいがもっとよくなれば良いなと思って3冊、本を作りました。」と保健・環境委員会が作った説明動画の中で市森かなさんと仲田柚羽さんが話していました。みなさんも見たと思いますが保健・環境委員会のその考えは私も同じです。

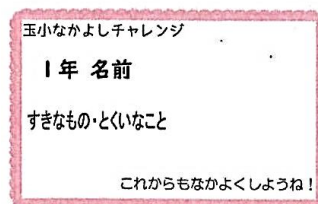


3冊の本（「さみしいぼく」「たのしいぼく」「ことばひとつで～傷つける～歩み寄る～」を読むと「あなたが言う言葉ひとつで、相手の気持ちが良い方にも悪い方にも変わり、結末がちがう」ということがよく分かりました。

保健・環境委員会のみなさん、ストーリーから吹き出しの言葉、分かりやすい絵など、よくがんばって作りましたね。ありがとう。

〇なかよしチャレンジ…運営委員会の取組

「玉小のみんながもっと仲良くなるように」と運営委員会で考えた新たなゲーム【名刺交換ゲーム】です。自分の名前や好きなものやとくいなことを名刺に書いて、休み時間にちがう学年の人に声をかけることにチャレンジします。いろいろな人と言葉をかわし、仲良くなっていきましょう。



運営委員会のみなさん、やり方からルール作りまでよく考えましたね。「今まで話したことのない人と話すきっかけになるとうれしい」というみなさんの思いが私はうれしいです。

〇小中あいさつ運動…児童会とのコラボレーション

2月7日（水）朝、玉中学校の生徒さんたちが本校に来てくれ、児童会と一緒にあいさつ運動をしてくれました。先輩たちの大きな声・優しい声のあいさつに朝からさわやかな気持ちになれた人が多かったと思います。

玉中学校の生徒のみなさん、本校児童会のみなさん寒い中、さわやかなふんいきにしてくれて、ありがとう。



今回の取組に寄せて

ひとつのことば

保健・環境委員会の「言葉づかい」、運営委員会の「なかよしチャレンジ」、玉中学校と合同の「あいさつ」…どれも言葉に関わる取組です。

私は、自分が学級担任をしていた頃、クラスで【言葉美人になろう】と言ったり、学級だよりに書いたりしていました。当時、書いた学級だよりの中の一部をお話すると…

「あの人、かっこええなあ」とか「あの人、きれいじゃなあ」とかみなさんは思ったことがありますか？（教室でもよく聞く言葉です）そう思うほとんどの場合はその人の容姿（見た目）だと思います。

しかし「かっこよさ」や「美しさ」はそれだけではないと思います。その人が今まで生きてきた中で身についたふんいき、それによって発せられる言葉にも「かっこよさ」「美しさ」があると思います。

T（時）・P（場所）・O（場合）に応じた言葉が言える人、優しい思いやりの言葉が言える人などの【言葉美人】になってほしいと思います。

上の文章は、中学生向けに書いているので、やや分かりにくいところがあるかもしれません。もうひとつ紹介します。それは以下の「ひとつのことば」という詩です。（作者は明治から昭和初期に活躍した詩人の北原白秋さんです）

ひとつのことば

作 北原白秋

ひとつのことばでけんかして
ひとつのことばでなかなかおり
ひとつのことばで頭が下がり
ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い
ひとつのことばで泣かされる
ひとつのことばはそれぞれに
ひとつの心を持っている
きれいなことばはきれいな心
やさしいことばはやさしい心
ひとつのことばを大切に
ひとつのことばを美しく

この詩に初めて出会ったのは、27年前でした。

卒業間近に作る卒業文集に私が担任をしていたクラスの生徒達へ贈る言葉として、当時の教頭先生がこの詩を書いてくれました。

「これは心にひびく詩だなあ」とそれから何回も学級や学年、学校の生徒たちに紹介しました。

みなさんもこの詩を読んで、「なるほどなあ」と思いませんか？相手を攻撃する言葉、傷つける言葉、不用意な言葉もあれば、受け入れる言葉、いやす言葉、勇気づける言葉もあります。それぞれの言葉がそれを言う人の心をうつし出しているのです。言葉ひとつ、言い方ひとつでずいぶん印象が変わりますね。

「会話はキャッチボールだ！」と言われます。きついボール（言葉）を投げつけられれば、それよりもきついボール（言葉）を投げ返そうとします。反対に相手のことを考え、とりやすいボール（言葉）を投げれば、相手からも優しいボール（言葉）が返ってきます。言葉を大切に、美しく話すことができればきっとお互いが気持ちよく過ごすことができると思います。

いろいろな委員会が行ってくれた今回の取組には、そのような思いがあふれています。

また「言葉を大切にする」ことは、大人になるために身につけておかなければならないことだと思います。

みなさんは毎日、いろいろな人と話をします。その言葉に気を付けましょう。そして今回の取組が目指す「玉小をもっと良くする」ことにと取り組んでいきましょう。